

光市医師会報

No 171



昭和62年1月発行
光市医師会

医師会月間行事

周南三市医師会役員協議会

12月3日 於松屋ホテル

- 1：62年度学校医予防接種等報酬について
- 2：62年度要望書について
- 3：看護学院授業料値上げについて
- 4：県医師会100周年周南地区記念行事について
- 5：お盆の在宅医について

出席役員名

(徳山)

姫野英雄	野間慎朗	藤井一郎
高橋泰昭	桜田顕栄	武居篤史

(下松)

武居敏輔	後 克和	西辻知生
篠山歳行	岡藤 賢	藤原敏雄

(光)

竹中昭二	福本寿雄	中村琢美
富恵 哲	丸岩 巖	近藤龍一

S61年12月度 理事会

12月9日 於医師会館

- 1：郡市医師会正副会長会議報告
- 2：光市医師会主催講演会について
- 3：医師会学術研修会（光医師会主催）について（以上会長）
- 4：忘年会について
- 5：周南三市会報告
- 6：児童・生徒の心臓検診体制について
- 7：昭和61年度心臓検診収支表について
- 8：事務職員の年末賞与の件
- 9：医師会史編纂について
- 10：高年齢者多数雇用報奨金・助成金について

S61年12月度月例会及び忘年会

12月16日 於光総合結婚式場

1：月例会 18時30分～

- ・郡市医師会正副会長会議報告他

2：忘年会 19時00分～

- ・開宴前に全員で記念撮影（表紙）
- ・藤原先生の名司会にて開宴
会長あいさつの後、田尻先生の乾杯の音頭と続き、和気藹藹のうちに盛大なカラオケ大会となり、大野先生のうる



わしき美声を最後に大野先生による萬才三唱にて閉会となった。



うちかたの先生



赤崎信正先生
編

時は昭和18年3月8日に宇部市にある真締川で産湯を使い、現在43才。山口大学医学部卒業後山口県内の病院で活躍され、光市立病院呼吸器内科に所属されて早7年目、すっかり光市民になられたようで、知り合いな人も今や数えきれないほどです。

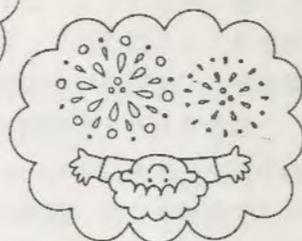
赤崎ファミリーは、最愛なるママちゃんと5才の信ちゃんと3才のたっちゃんの4人家族。どこへ行くのもわかるがも一家ではないけれど先生を先頭にいつも一緒に、ほんとうにほほえましい姿です。

先生の趣味の一つに、祭り見物があります。近郊の祭り行事をどこからともなく情



祭りだ!!

祭りだ!!



報を得ては、一家で出かけられているそうです。先日も、患者さんが一年間の祭りのスケジュール表を先生に進呈されたとか。こんなに祭り好きな先生の裏を返せば、ちょっぴり淋しがり屋な面もうかがえます。あるいは、郷土をこよなく愛し、先祖の気持ちを大切にしようと思う素朴な心が先生をそうさせているのかもしれませんが。聞く所によると、「お笑いこう」で有名な防府市にある神社の子孫にあたるとか……。

もう一つの趣味に、野菜作りがあります。今では、毎日三井にある畑通いにイキイキです。サツマイモ・ネギ・ピーマン・ナス・トマトなど種類は豊富で、出来映えはまずまず。つい先立っても玉ねぎの苗を300本植えられ、まさに本格派。そのうち赤崎農園ができるのではと、スタッフ一同期待っています。診察の途中、患者さんと菜園の話に花が咲き、聴診器の手も止まるほどです。そんな時、緊張している患者さんの顔がほころび病気のことも一瞬忘れ、赤崎先生の世界に引き込まれているようです。

夕焼けに くわの持つ手に ほほえみが、
ところで、院内での先生は、病理医長の

役がら一日何時間かは病理室に行かれ、顕微鏡を前に斯道の研究をされており、外来診療と病棟廻診という忙しい毎日を過ごされています。患者さんからも「ざっくばらんで飾り気がなくて、とてもこころやすい先生ネ」と人気があり、本当に困っている患者さんには親身なお世話をされます。

こんなうちかたの赤崎先生に、これから今以上に仕事はもちろんのこと、ファミリーに愛情を注ぎ、趣味の菜園作りに励まれ、いつの日にか「赤崎農園バンザイ!!」となりますよう、一記者より御期待申し上げます。

光市保健センターの 機能充実と 受診率の向上について



光市市民部
保健センター
所長
河崎 要助

光市保健センターは、市民に密着した健康相談・健康教育等の対人保健サービスを行う拠点として、また健康増進・健康づくりの場として、昭和60年4月1日に竣工しました。以来、光市医師会をはじめ、光市健康づくり推進協議会・光市健康をつくる婦人の会・保健所・その他関係団体の積極

的なご協力・ご支援を得、各種検診業務・健康教育・健康相談・母親教室・介護教室・母子保健・栄養改善研修などで、約14,000人の方々にご利用いただいております。それゆえ保健センターとしての機能は、十分果されてまいっているというふうと考えます。今後共なお一層、内容充実に努めてまいり所存でございます。

それに、私ども保健業務に携わる者の基本的役割は、地域住民が保健事業に関心を向け、正しい知識を持って実践していただけるよう指導することにあると思うわけです。疫病の早期発見・早期治療、すなわち受診率アップが肝要と考えます。

実は私、以前から健康管理のため、必ず年1回健診を実行しております。古い話ですが、5年前の胃がん健診において、潰瘍と診断されビックリ。と申しますのも、私自身いつもと変らぬ食事・晩酌・好きなスポーツもでき、何ら自覚症状もなく、半ば誤診ではと疑いながら精密検査（胃カメラ）を受けました。その結果は即入院。検査が必要に応じ行われ数日を経過、今度は手術の宣告です。一瞬胸が熱くなり、「一体どんな病気だろう？痛みもないのに、まさか不治の病？」などと考え込むばかりでした。そんな或る日、先生から手術はまぬがれない説得に手術を決心しました。元気な体調の中で手術を受けたせいか回復も順調で、今ではピンピンしております。早期発見・早期治療のお陰です。

市民の皆さん方も、年1回は必ず健診を受けられて、健康で明るい家庭を築き上げていただきたいと存じます。そのためにも、当施設をご活用いただきたいと存じます。

あ と が き

今年1年、原稿その他で大変お世話様になりました。

他の用事で電話しても、医師会や予防注射で会っても、ありありと拒絶の態度の感じられることがしばしばで、大変さびしい想いをしました。

『又、フォーカスしちよる、わしゃよう書かんど…………。』

これは、誰のセリフでしょう？しかし、本当はお願いすると、テレながらでもOKして下さるのです。

また、来年もこのようなやりとりをしながら、つづけていきたいと思っております。まずはトシオトコの方達、ご覚悟!!



光市医師会報
1987年12月号
編集長 佐藤 隆
発行所 光市医師会
〒411-0101 光市 本町1丁目1番1号

